

日本国憲法(抄)

第十四条 すべて国民は、法の下(もと)に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的・経済的又は社会的関係において、差別されない。

こやま地区人推協だより

- 第25号 -

2018年(平成30年)3月28日

編集・発行

湖山地区人権啓発推進協議会

〒680-0941 鳥取市湖山町北1丁目202-1

TEL(0857)28-1017

FAX(0857)28-1119



人権講演会

『高齢者の認知症や虐待を通じて人権を考える』

平成二十九年度計画しました諸事業を無事終えることができました。ご協力いただきました皆様、特に小地域懇談会開催町の皆様には、格別のご支援をいただき、厚く感謝申し上げます。



湖山地区人権啓発推進協議会 会長 浜橋 博

思いやりあふれる まちづくりをめざして

見や、普段からの近所付き合いが大切であるなどの意見もたくさん、とても参考になりました。人権の問題は、私たち一人ひとりの生活に大きく関わっている大事なものです。私たちは、安心、安全に暮らしているのだろうか、自信を持って行動しているだろうか、高齢者や認知症の方の対応の学習を通して、いろいろ考えさせられました。「まずは気づき、互いに相手を思いやり、相手の気持ちや立場を考えて行動する」ということが大切だと思います。となり近所、町内会、さらには湖山地区全体に「思いやりあふれるまち」になっていくことを願っています。

平成29年度 活動報告

《湖山地区人推協活動》

Table with 3 columns: Date, Item, Attendance. Lists activities from May to March.

《湖東ブロック人推協活動》

Table with 3 columns: Date, Item, Attendance. Lists activities from April to March.

《鳥取市・県人推協活動》

Table with 3 columns: Date, Item, Attendance. Lists activities from May to December.

湖東ブロック 研修会

人権啓発研修会

平成29年9月9日(土) 9:15-12:00

場所:湖山西地区公民館

『はなちゃんのみそ汁』映画上映会

夫が妻を支え、家事や育児への携わり方や、母親からの大切な家族への命のメッセージをテーマに、家庭生活への男女共同参画のあり方について、映画を通してみんなで考えました。



推進員研修会

平成30年1月13日(土) 9:30-11:30

場所:湖山西地区公民館

テーマ:『ドイツと日本のエトセトラ』

ドイツ出身の、アンドレー・コヴィッツ・マリーさんを講師に、ドイツでの家族の形や、教育と仕事観、ジェンダーシフトについてお話を聞きました。



学び続けること

湖山地区人権啓発推進員 木下 志津

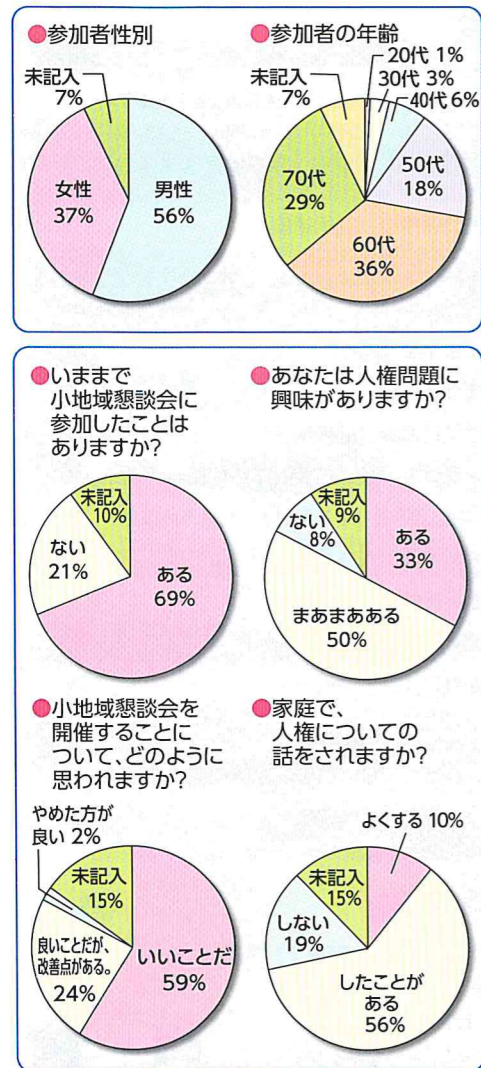


「人権啓発推進員をしてみんか?」 浜橋会長さんが声をかけてくださった。昨春、学び続けていきたいと思っていた「人権」に関する活動であったため、あまり迷うことなく引き受けました。そして、小地域懇談会やいろいろな研修会に参加させていただき、改めて、「人権」について学ぶことや、人とのつながりの大切さを感じた一年でした。特に高齢者問題や子どもの貧困については、考えさせられることが多くあり、とても有意義でした。

編集後記

今年度も各町区の皆様のご協力により、湖山地区人推協の活動を計画通り、無事終了することができました。人権問題は、とくに難しいと思われている人が多くいらっしゃると思いますが、それは「知らない」から難しいことではないです。知ること、何が問題で、原因は何かとわかってきますので、皆様、是非とも人推協の活動や小地域懇談会へ参加してみてください。

アンケート結果



『思いやりあふれるまちづくりをめざして』平成29年度 小地域懇談会活動報告

茶屋1区
 ■10月28日 14:00~15:30
 ■湖山地区公民館 ■参加者:3名
 ■視聴DVD『ここから歩きはじめる』

- 学ぶ機会を、定期的にもつことが大切だと思います。
- 地域のサポートが必要と感じました。
- 色々参考になりました。

駅前3区
 ■10月22日 10:00~11:45
 ■駅前3区集会場 ■参加者:17名
 ■視聴DVD『夢のつづき』

- 認知症の問題は、これから特に身近な問題となっていきます。各個人で事情は異なりますが、支え合う気持ちを大切にすれば、出来る事はあると思います。

茶屋2区
 ■9月30日 10:00~11:30
 ■茶屋2区公民館 ■参加者:13名
 ■視聴DVD『認知症の人の心を感じて』

- 良く理解できたが、なかなか、心やさしくなるのは難しいと思います。具体例は、参考になりました。

茶屋3区
 ■9月3日 10:40~12:00
 ■茶屋3区公民館 ■参加者:28名
 ■視聴DVD『認知症の人の心を感じて』

- 認知症について具体的にどう対応していけば良いかヒントをもらい、色々考えさせられました。家族だけでなく、公共機関や近所の方との関わりも大切だと思いました。

大石橋・コクヨ前
 ■7月23日 10:00~11:40
 ■湖山地区公民館 ■参加者:16名
 ■視聴DVD『ここから歩きはじめる』

- DVDは、現実とは少し違っていて、介護はまだまだ大変です。サポートは絶対必要です。認知症は恥ずかしくないという言葉は響きました。
- 家族は現実大変です。親だから優しく出来ない。(怒って現実が受け入れられない。イライラする。)介護施設等の利用方法がわかりません。

浜・松ヶ丘
 ■11月19日 10:00~11:45
 ■湖山地区公民館 ■参加者:17名
 ■視聴DVD『ここから歩きはじめる』

- あらためて、認知症について考えさせられました。年を取ると現実的な問題なので、身につまされる気がしました。ただ、実際きれいごとではない事をさらに考えさせられました。
- 自分の行く道だと感じました。家族・地域の協力が大事です。

井津水
 ■11月10日 19:00~20:35
 ■井津水区公民館 ■参加者:26名
 ■視聴DVD『ここから歩きはじめる』

- 親の認知症に苦労しながらも対応している、息子・嫁・孫の立場が的確に伝わるビデオでした。とても有難い制度がある中、甘えばかりでなく健康年齢を考えた生活の日々を心がけてたく思います。民生委員さんの声掛けもありがたいです。

南通り
 ■10月29日 14:00~15:30
 ■南通り公民館 ■参加者:7名
 ■視聴DVD『認知症その心の世界』

- 認知症について考えるきっかけになりました。家族だけではサポートしきれない問題であると思います。公的なサービスの利用や地域の助けも大切だと思います。

新川
 ■10月29日 10:00~11:35
 ■新川公民館 ■参加者:15名
 ■視聴DVD『ここから歩きはじめる』

- 認知症の方への対応は難しいと思いました。特に家族の中にいると、いけないとは思いつつ、きつくあたってしまいそうです。色々な制度を使わないと、とても無理だと思うので知りたいと思いました。

さざなみ
 ■10月28日 18:00~19:35
 ■湖山地区公民館 ■参加者:5名
 ■視聴DVD『夢のつづき』

- 今回の内容としては、ある程度知っていましたが、当事者となって考えると、頭でわかっていてもなかなか難しい問題だと改めて感じました。

小地域懇談会の改善点

- ①小地域懇談会を各町内に周知するための工夫が足りないのでは？見た人の関心を引くチラシ作成。
- ②出席者が少なく、もっと内容を充実させて多数の参加者にアピール出来るように希望します。
- ③複数の区、あるいは全区合同で開催した方が多数の人が集まるのでは。
- ④数多くの事例を学びたい。
- ⑤老人会のようになっていたので、若い世代にも参加するよう働きかけが必要。

平成30年度 小地域懇談会 開催町区

- 島川
- 茶屋4区
- 青葉台
- 駅前1区
- 駅前2区
- 南2丁目南
- 南2丁目
- 南団地
- さかえ
- 農高南

県内視察研修(公民館共催事業)

- 平成29年12月13日(水) 10:00-15:00
- 倉吉市・東伯郡 『やまびこ人権文化センター』 『ぱにーに湯梨浜店』見学

近くでも、行く事もなく初めてでよい勉強になった。昔の文化(ポテ茶)を引き継ぐことの意味もわかった。ぱにーにの見学も、障がい者の働く場を広げることの大切さがよくわかった。 《アンケートより》

県外視察研修(公民館共催事業)

- 平成29年7月14日(金) 7:30-18:30
- 京都府舞鶴市 『舞鶴引揚記念館』 『赤レンガパーク』見学

舞鶴引揚記念館では、戦争に翻弄され、命からがら日本に帰る…。戦争は老若男女すべての方の人権を傷つける行為だと感じた。「戦争は最大の人権課題である」との言葉をかみしめた1日であった。《アンケートより》

人権講演会(公民館共催事業)

演題 高齢者の認知症や虐待を通じて人権を考える

講師 鳥取こやま地域包括支援センター
 保健師 松川真由美さん
 社会福祉士 中瀬美智子さん

人権講演会に参加して 湖山地区人権啓発推進員 田中 忠義

平成29年12月末における鳥取市の65歳以上の高齢者は約53千人で、高齢化率は約28%であり、4人に1人は高齢者です。この様な高齢化社会の中で、認知症という「脳が障害される病気」が問題視されており、団塊の世代が75歳以上になる平成37年には、高齢者の5人に1人は認知症を発症すると推計されており、決して他人事ではありません。

認知症の中心的症状は「記憶障害」で、時間や場所がわからなくなったり、言葉を失ったりなどのさまざまな症状を発症します。介護する方は先が見えなくて心身とも疲労してしまうなどの問題もあることから、一人で悩まず、まずは公的サービスである「地域包括支援センター」に相談することが大切です。

また地域に住む私たちが、さりげない手助けや見守りをすることは、高齢者とその家族を支えることにつながります。そのためにも、日頃からの地域活動への参加や、コミュニケーション作りが大切であることを学ぶことが出来ました。